

お茶の水女子大学附属中学校3年

高野 明

レイとは何か、ご存じだろうか。レイは花の首飾りのことで、ハワイで広く浸透している装飾品だ。お祝いや感謝の気持ちを伝える贈り物として、ごく一般的に用いられる。

幼少のころハワイで育った私にとって、幼稚園だったにもかかわらず、強く記憶に残っている経験がある。それは「バザーの出し物を作るのに、会社を作って実際に運営してみましよう」というものだ。何を作って売ることか、どのように売れば多く売れるか、どのようにお金の管理をするのか、儲かったら次は何をするのか、といったことを、全て子供たちに自主的に考えさせて議論の上で運営方針を決める、というものだった。アメリカではこのように小さいうちからお金に関する教育が行われている。

皆で話し合った結果、私たちはレイを作って販売することにした。幼稚園児たちの作ったレイは、バザーにて保護者や地域の住民が買って下さり、それなりの利益を得た。バザーのあとは、お祭りの要素もあったので儲かったお金でハンバーガー・パーティーをして盛り上がった。

私の印象に残っているのは、お金の管理についてだ。使ったお金と儲かったお金が幾らなのか先生は子供たちに帳簿をつけさせる。今思うと驚いたのは、架空の会社であるのに法人税の概念が入っていることだった。さらに、売り上げの中からも一定の金額は消費税（アメリカでは売上税）として別にとっておくように言われた。幼少の子供相手にしてはかなり本格的だ。

パーティのあとに改めてお金に関する授業があり、会社が納める法人税や、消費者が支払う消費税は、最終的には幼稚園や小中学校の維持・管理費用にも使われている、という説明をしてもらった。いかに税金が子供たちの教育を支えているか、その社会的な意義を子供ながらに気づかされた。税金を払ってくれる人がいなければ幼稚園や小中学校は無くなってしまおう、と子供心に心配したのを覚えている。そもそも税金というものがあることや、その税金が自分の身近なところで活用されていることを、小さいうちに知ったのは良い経験だったと思う。

日本の教育も税金に支えられて成り立っている。私は国立大学の附属中学校に通っているが、運営費の多くの部分は国から支出されている交付金によって支えられている。教育に使われる税金は公立学校の義務教育だけに留まらず、高校にも大学にも税金は活用されているのだ。

これから私が大人になるまで、様々な税金の恩恵を受けることになるだろう。今は税金という社会の仕組みに助けをもらいながら学校に通っているが、この仕組みが今後も健全な状態で続いていくことを願い、未来の子供たちが同じような恩恵を受けられるように、将来は良き納税者として社会に貢献したい。